

安全保障関連法案に抗議する声明

7月16日衆議院本会議で安全保障関連法案が強行採決されました。この法案はまちがいなく憲法違反であり、立憲主義を根底から覆すものであり、断固として反対を表明いたします。このような法案を数の力で通すのはまさに暴挙ではないでしょうか。

『教え子を戦場に送らない』をスローガンにはじまったのが戦後の教職員組合です。かつての教師は、戦争に協力することを教育の指針とし、子ども達を戦場へと送り出してきました。

教え子たちを戦場に送ってしまったと、ふるえながら話をしてくれた祖母は、戦後日本が平和になったことを喜んでいました。しかし、今、教え子たちを守れなくなってしまうのではと思うと、心と体がふるえてしまいます。

戦後の教育を受けた若者が今、この戦争法案に怒っています。今まで彼ら、彼女らが受けてきた教育は、人を殺すための教育ではなかったことが証明されました。私達は世界に誇るべき“憲法9条”のもとで、子ども達に民主主義を伝えてきたのです。憲法9条の非戦の精神を貫くことこそ、国際社会における日本のあるべき道ではないでしょうか。

今も昔も同じでしょうが、子ども達の涙や笑顔に支えられ、その下に我々教師の成長があります。その支えである子ども達が、将来を不安に想う社会では、生徒・教師・保護者すべての土台が崩壊してしまいます。

私達は、10年先も20年先も、永久に、戦火に怯えることのない日本で過ごしたいのです。

私達は、未来のある子どもたちの手を血で染めたくないのです。

私達は、憲法9条とともに世界にもっともっと平和を広げたいと思っています。

私達は、平和国家の破壊を許すことはできません。

私達は、二度と再び戦争の惨禍を繰り返さないと誓ったバトンを、子ども達に手わたしたいのです。

私たち教職員が平和を願い、行動に移すときは、今をおいてありません。私達にできること、それは諦めることなく最後まで声を上げ続けることだと思います。

安全保障関連法案に全力で抗議し、廃案に追い込む決意を込めて。

2015年7月23日

大阪私学教職員組合青年部